

情報工学専攻 授業科目関連表						
科目群	1年		2年			
	前期	後期	前期	後期		
専攻指定	情報ネットワーク特論※ センシング工学特論※ 知能化システム特論※	数理情報学特論※ 情報工学特別演習Ⅰ	ヒューマン・インタフェース特論※ 信号計測システム特論※	コンピュータ・アーキテクチャ特論※ (情報工学特別演習Ⅰ)		
研究科共通	知的財産権出願特論 工学展望特論 (社会人向け) 論文発表演習 大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ 国際特別講義Ⅰ 国際特別講義Ⅱ	ISO学特論 ベンチャービジネス特論 論文発表演習 企画力養成演習 大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ 国際特別講義Ⅰ 国際特別講義Ⅱ	(工学展望特論 (社会人向け)) (論文発表演習) (大学院・国内インターンシップ) (大学院・長期インターンシップ) (国際特別講義Ⅰ) (国際特別講義Ⅱ)	(論文発表演習) (大学院・国内インターンシップ) (大学院・長期インターンシップ) (国際特別講義Ⅰ) (国際特別講義Ⅱ)		
国際教育科目	コミュニケーション英語 国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学	コミュニケーション英語 国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学	(コミュニケーション英語) (国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学)	(コミュニケーション英語) (国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学)		
研究領域教育科目	研究領域C 情報処理・情報通信	コンピュータアーキテクチャ 教育研究分野	コンピュータ・アーキテクチャ演習Ⅰ※ 並列ソフトウェア特論※	コンピュータ・アーキテクチャ演習Ⅱ※	並列ソフトウェア演習Ⅰ※ 並列ソフトウェア演習Ⅱ※	
		コンピュータソフトウェア 教育分野	計算モデル演習Ⅰ※	計算モデル演習Ⅱ※	数理情報学演習Ⅰ※ 計算モデル特論※	数理情報学演習Ⅱ※
		情報通信システム 教育研究分野	マルチメディア処理演習Ⅰ※	マルチメディア処理演習Ⅱ※	情報ネットワーク演習Ⅰ※ マルチメディア処理特論※	情報ネットワーク演習Ⅱ※
		ネットワークセンシング 教育研究分野	通信信号処理演習Ⅰ※	通信信号処理演習Ⅱ※	センシング工学演習Ⅰ※	センシング工学演習Ⅱ※ 通信信号処理特論※
		スマートシステム 教育研究分野	信号計測システム演習Ⅰ※ IoTシステム演習Ⅰ※	信号計測システム演習Ⅱ※ IoTシステム演習Ⅱ※	IoTシステム特論※	
		データサイエンス 教育研究分野	データサイエンス特論※		データサイエンス演習Ⅰ※	データサイエンス演習Ⅱ※
		ヒューマンコンピュータインタラ クション教育研究分野	ヒューマン・インタフェース演習Ⅰ※	ヒューマン・インタフェース演習Ⅱ※		
		知能化ライフサポート 教育研究分野			知能化システム演習Ⅰ※	知能化システム演習Ⅱ※
		教育研究分野共通	情報工学特別講義 AⅡ※		情報工学特別講義 AⅠ※	
創成工学教育科目	生産管理論特論Ⅰ ものづくり管理工学特論 実践企業学	生産管理論特論Ⅱ 造船工学特論 先輩から学ぶ先端科学技術 情報創成工学特論		(情報創成工学特論)		
特別研究	情報工学特別研究Ⅰ	情報工学特別研究Ⅱ	情報工学特別研究Ⅲ	情報工学特別研究Ⅳ		

※ 隔年開講科目 赤字はコア科目

工学研究科情報工学専攻

科目区分/領域	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関連					
		1	2	3	4	5	6
専攻指定	学生は、情報工学に関わる基礎学問領域について理解し説明できる。	◎	○	○			○
	学生は、所属する教育研究分野の学問領域について理解し説明できる。	○	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記の知見を教育研究分野における創造に活用できる。		○	◎	◎	◎	◎
コンピュータアーキテクチャ 教育研究分野	学生は、コンピュータアーキテクチャ分野の基礎について理解し説明できる。	◎		○			◎
	学生は、コンピュータアーキテクチャ分野の応用について理解し説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記知見を用いて、情報工学に関する理論・システムを創造できる。		◎	◎	◎	◎	◎
コンピュータソフトウェア 教育研究分野	学生は、コンピュータソフトウェア分野の基礎について理解し説明できる。	◎		○			◎
	学生は、コンピュータソフトウェア分野の応用について理解し説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記知見を用いて、情報工学に関する理論・システムを創造できる。		◎	◎	◎	◎	◎
情報通信システム 教育研究分野	学生は、情報通信システム分野の基礎について理解し説明できる。	◎		○			◎
	学生は、情報通信システム分野の応用について理解し説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記知見を用いて、情報工学に関する理論・システムを創造できる。		◎	◎	◎	◎	◎
ネットワークセンシング 教育研究分野	学生は、ネットワークセンシング分野の基礎について理解し説明できる。	◎		○			◎
	学生は、ネットワークセンシング分野の応用について理解し説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記知見を用いて、情報工学に関する理論・システムを創造できる。		◎	◎	◎	◎	◎
スマートシステム 教育研究分野	学生は、スマートシステム分野の基礎について理解し説明できる。	◎		○			◎
	学生は、スマートシステム分野の応用について理解し説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記知見を用いて、情報工学に関する理論・システムを創造できる。		◎	◎	◎	◎	◎
データサイエンス 教育研究分野	学生は、データサイエンス分野の基礎について理解し説明できる。	◎		○			◎
	学生は、データサイエンス分野の応用について理解し説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記知見を用いて、情報工学に関する理論・システムを創造できる。		◎	◎	◎	◎	◎

ヒューマンコンピュータ インタラクション 教育研究分野	学生は、ヒューマンコンピュータインタラクション分野の基礎について理解し説明できる。	◎		○			◎
	学生は、ヒューマンコンピュータインタラクション分野の応用について理解し説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記知見を用いて、情報工学に関する理論・システムを創造できる。		◎	◎	◎	◎	◎
知能化ライフサポート 教育研究分野	学生は、知能化ライフサポート分野の基礎について理解し説明できる。	◎		○			◎
	学生は、知能化ライフサポート分野の応用について理解し説明できる。	◎	◎	◎	◎	○	◎
	学生は、上記知見を用いて、情報工学に関する理論・システムを創造できる。		◎	◎	◎	◎	◎

ディプロマ・ポリシー

1. 工学技術者基盤：情報系工学技術者としての基盤となる知識やノウハウを修得し、工学的視点から諸問題に対処できる。
2. 国際的視点：工学研究者あるいは工学技術者として、国際的な視点を持ち、グローバルにコミュニケーションを図ることができる。
3. 専門知識：高度情報化社会における工学研究者あるいは工学技術者として、情報工学の幅広い専門知識を活かすことができる。
4. 高度専門技術：情報処理・情報通信の高度専門技術を修得し、実践的に応用できる。
5. 創成工学：企業の設計・生産部門で必要となる専門技術を修得し、ソフトウェアやハードウェア等の産業化プロセスにおいて応用および実践ができる。
6. 修士論文研究：修士論文に関する研究を通して、知識の応用法を体得し、問題発見、問題解決、情報発信などを独自に実施することができる。